

2014 年度 立命館大学大学院
先端総合学術研究科（一貫制博士課程）

一般入学試験問題

論文

入試方式	領域	試験時間	解答方法
一般入学試験	共生	90 分	問題 1、問題 2、問題 3 を解答

（途中退室はできません）

【解答にあたっての注意】

1. 解答は設問ごとに指定の解答用紙を使用すること。
2. 配布されたすべての答案用紙に受験番号・氏名を記入すること。
3. 試験中に気分が悪くなった場合は、静かに手を挙げて監督者に知らせること。

* この問題冊子は、試験終了後に回収します。

2013年9月8日(日)実施

2014年度 立命館大学大学院 先端総合学術研究科 9月一般入学試験
(共生領域)

問題1、問題2、問題3のすべてを解答せよ。

映画『母たちの村』(ウスマン・センベヌ監督・2004年)は、アフリカ諸国を中心に広い地域で実施されている女子割礼/女性器切除の問題を真正面から取り上げたことで、第57回カンヌ映画祭で高く評価された作品である。女子割礼(正式には女性器切除:Female genital mutilation:FGM)は、クリトリスや小陰唇の切除、膣口の極小化や縫合といった女性器の加工をおこなう慣行であり、その実施理由には、女性の純潔や処女性の維持、男性による女性の性欲管理があるとされる。女子割礼は、手術時における大量出血死やショック死のほか、排尿痛や月経困難症、難産、性交時の激痛等の後遺症、性感染症等の危険性があることから、1970年代より国際社会において女性に対する人権侵害/虐待であるとの非難が高まり、廃絶に向けた運動が展開するようになった。しかし一部の実施国・地域の住民からは自分たちの文化を否定する外部からの不当な干渉であると反発の声が上がり、文化相対主義論争へと発展した。

以下の文章は、某女子大学における文化人類学(教養科目)の最初の講義で、『母たちの村』を鑑賞した女子学生たちから最も多く寄せられた2タイプの感想・意見をもとに作成した、仮想の感想文である。学生Aと学生Bによる意見はどちらも、一定の論理を明快に提示していると考えられるが、文化に対する理解や異文化との関わり方についていくつかの問題を抱えている。

学生A

私は、女性器切除という残酷な慣習が21世紀にまだ存在すること自体に大きな衝撃を受けました。麻酔もなしに少女の性器を切除することは、虐待以外の何ものでもないと思います。映画を観ていちばんショックだったのは、ほかならぬ女性たち(母親)のなかに、このような残酷な慣習を擁護する者たちがいることです。彼女たちは単に伝統であるとか、女子割礼を受けていないと結婚できないという理由で、自分の子どもに割礼を受けさせます。私はこの問題の本質には、教育の遅れがあると考えます。アフリカの女性たちは女子割礼の危険性に関する知識を欠いているため、このような慣習に従うことに疑問すら抱けません。また教育を受けていない女性たちは自立することができず、男性の支配下に置かれています。私たちは、アフリカの人びとに女子割礼の危険性や女性の人権について教えてあげなければなりません。また女子割礼を強要する人間に対しては、強制的に罰を与える仕組みをつくるべきです。この世界には、未来に残すべき文化とそうでない文化があると思います。アフリカには音楽やダンスなどの素晴らしい文化もありますが、多くの文化は迷信にとらわれています。アフリカの人びとは自分たちの慣習や文化に問題があると指摘されても、最初はなかなか理解できないかもしれません。でも粘り強く説明すれば、アフリカの人びともいつか女子割礼が間違っていることに気づくはずで、私は一日でも早く女子割礼という文化が世界からなくなことを祈っています。

学生B

この映画を観て日本に生まれて本当によかったと思いました。なぜなら、もし私がアフリカに生まれていたら、私は女子割礼に何の疑問も抱かずに受け入れていたと思うからです。世界には本

当に多くの理解しがたい慣習や文化があります。しかし、いくら私たちにとって理解しがたいものでも、それぞれの地域の伝統や文化は尊重しなければならないと思います。そうしなければ、異なる文化間で争いごとを引き起こすことになります。例えば、イスラーム教徒の女性たちのスカーフの着用について、異教徒が一方向的に否定することは、宗教対立の一因となるでしょう。私たちは女子割礼や一夫多妻制度をよくない慣習だと考えていますが、アフリカの人びとだって私たちの文化を知れば、様々な疑問を持つと思います。たとえば、同人誌における児童ポルノをアフリカの人々が知ったらどう思うでしょうか。女子割礼を野蛮な慣習だと思う日本人のなかには、児童ポルノを表現の自由の観点から擁護している人がいます。生まれた環境が異なれば、当然、考え方や価値観も異なります。同じ人間だから話し合えば理解できると考えるのは、傲慢だと思えます。そして完全に理解できない限り、外部の人間が異文化に干渉するのは、やめるべきだと思えます。結局のところ、女子割礼も、当事者たちがみずからそれを問題だと感じ、やめたいと望まない限り、外部の人間にはどうすることもできないのだと思えます。

問題1：文化相対主義とはどのような主義かを100字～200字で説明せよ。

問題2：学生Aと学生Bの意見それぞれに、どのような問題があるかと考えるかを自由に論述せよ（字数制限なし）。

問題3：□の用語一覧は、すべて「共生」領域の研究（比較文学、文化人類学、政治哲学）において使用される重要な用語である。□のなかから、3つを選び、その意味を平易な言葉でわかりやすく説明せよ（100字程度）。また、その用語に関連する代表的な論者を□のなかから選択せよ。

※ただし、一つの用語につき代表的論者は複数いる場合がある（解答は1名でもよい）。また、一人の論者がふたつ以上の用語にかかわる研究を行っている場合があるため、論者の使用は重複してもよい。

（用語一覧）

ポストコロニアル批評、サバルタン、オリエンタリズム、文化帝国主義、多文化主義、クレオール性（文学）、グローカリゼーション、アイデンティティの政治、マルチチュード、グローバル市民社会論、ネグリチュード、想像の共同体、ブラック・ディアスポラ、トランス・ナショナリズム、クィア、グローバル・シティ、ポストモダン文学

（代表的論者一覧）

エドワード・サイード、フランツ・ファノン、アントニオ・ネグリ、マイケル・ケニー、ポール・ギルロイ、スチュアート・ホール、マイケル・ハート、サスキア・サッセン、エメ・セゼール、メアリー・カルドー、イヴ・セジウィク、ラファエル・コンフィアン、ガヤトリ・スピヴァック、マティアス・ルッツ、姜尚中、マイケル・ウォルツァー、ベネディクト・アンダーソン、レオポール・セダール・サンゴール、ジェームス・ポーマン、ジュディス・バトラ、ロナルド・シガール、ジョントム・リンソン、サミュエル・ベケット、アルジュン・アパデュライ、ローランド・ロバートソン、ニーナ・グリック・シラー、ウィリアム・C・パロウス、チャールズ・テイラー、ジャン＝フランソワ・リオタール